

子どものための科学実験講座を開催しました。

令和3年8月4日(水)、子どものための科学実験講座「電池のひみつ～レモン電池でオルゴールをならそう!～」を布佐分館とアビスタの2つの会場で開催し、合わせて44名の小中学生が参加しました。

講師は、科学読物研究会に所属されている坂口美佳子先生です。



まずはエレキテルの実験です。江戸時代の静電気発生装置になぞらえてつくってもらったという特製の「エレキテル」。



「ライデン瓶」に静電気をためて、蛍光灯を近づけると…一瞬光りました!

1万ボルトの電気の実験にドキドキしました。

次に、どんなものが電池になるか、いろいろな液体^{えきたい}で実験です。紙コップで工作したオルゴールがなるかどうか、ひとつずつたしかめます。



精製水^{せいせいすい}では音がなりません、塩をとかしたらなりました。

「でもすごく音が小さいし、変な音。オルゴールの曲には全然^{ぜんぜん}聞こえないよ。」

「お酢^すの方が大きく聞こえるよ。」

「亜鉛版^{あえんばん}と銅板^{どうばん}を動かすと音が変わる！」

それぞれいろいろな発見がありました。

いよいよレモン電池の実験です。



レモンに亜鉛版と銅板をさしてみると…

「聞こえた！」

「どの液体よりよく聞こえる。」

もっとよく聞こえる方法を先生が教えてくれました。

友だちのレモンと^{れんけつ}連結させるのです。

「えっと、こっちをぬいて、こっちにさせばいいんじゃない。」

「音が大きくなった！」「ちゃんと曲になってるよ！」

もう一つ、静電気の実験です。



琥珀^{こはく}を布にこすりつけて、ちぎったティッシュに近づけると、ティッシュが琥珀にすいよせられてくっきました。

「この“いろいろなものを引き寄せ^よせる”性質^{せいしつ}のおかげで琥珀はとても大事にされてきました。この不思議^{ふしぎ}なパワーで幸運やお金や愛^{あい}も引き寄せてくれる、と考えられ、ダイヤモンドより価値^{かち}が高い時代もあったんですよ。」と先生が教えてくれました。

また、電気の発見の歴史や、電池の仕組みについて教わり、本もたくさん紹介してもらいました。

「科学読み物は全部読み通さなくてもいいですよ。好きなところだけ読めばいい。」と坂口先生。



「この図鑑^{ずかん}、夏休み中に少しずつあちこちのページを読んでみるのも楽しそうでしょ？」

「おうちでも、レモンの代わりにいろいろな野菜やジュースなど、好きなもので実験してみてください。電気の本も合わせて読めば、新しい発見があるかもしれませんよ。」

先生にすすめてもらい、それぞれ本^{えら}を選んで借^かりて帰りました。

科学の本がぐっと身近になった講座でした。